

きっちよむ はなし
吉四六さんの話

～「ババクロウ」という さかな 魚～





朗読音声のダウンロード
Audio download

★よまえ 読む前に Before you read

《多読の読み方》

多読とは、とてもやさしい本から楽しくたくさん読んで日本語を身につけていく方法です。

次の4つのルールを守って楽しく読みましょう。

1. やさしいレベルから読む
2. 辞書を引かないで読む
3. わからないところは、とばして読む
4. 進まなくなったら、他の本を読む



《How to do Tadoku》

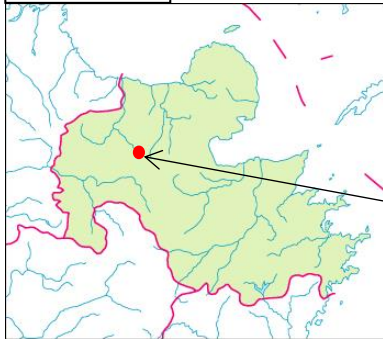
Tadoku recommends that everyone should start with very easy books and enjoy a lot of them following the 'Four Golden Rules' below.

1. Start from scratch.
2. Don't use a dictionary.
3. Skip over difficult words, phrases and passages.
4. When the going gets tough, quit the book and pick up another.





おおいたけん
大分県



のつまち
野津町

むかし おおいたけん の つ まち いま おおいたけんうす き し
昔、大分県の野津町（今の大分県臼杵市

の つ まち き っ ち ょ む お と こ
野津町）に、吉四六さんという男がいました。

き っ ち ょ む あ た ま
吉四六さんは、頭がよくて、いつもおもしろい

は な し は な し わ ら
話をしていました。その話にみんなが笑いまし

た。みんなは楽しくておもしろい吉四六さんが

だ い す
大好きでした。





ある日、吉四六さんが海の近くを歩いている
と、たくさんの方が集まって、大きな声で話して
いました。

「こんな魚は見たことがない」

「珍しい魚だ。初めて見た」



き っ ち ょ む さ かな み い
吉四六さんは、魚を見に行きました。

し さ かな
知らない魚でしたが、「これは『ババクロウ』と
い っ ち ょ む
いう魚だ」と、すぐに言いました。

き っ ち ょ む し
「すごい、吉四六さん！ だれも知らないことを
し
知っている！」

ほ かわ さかな
干して乾かした魚

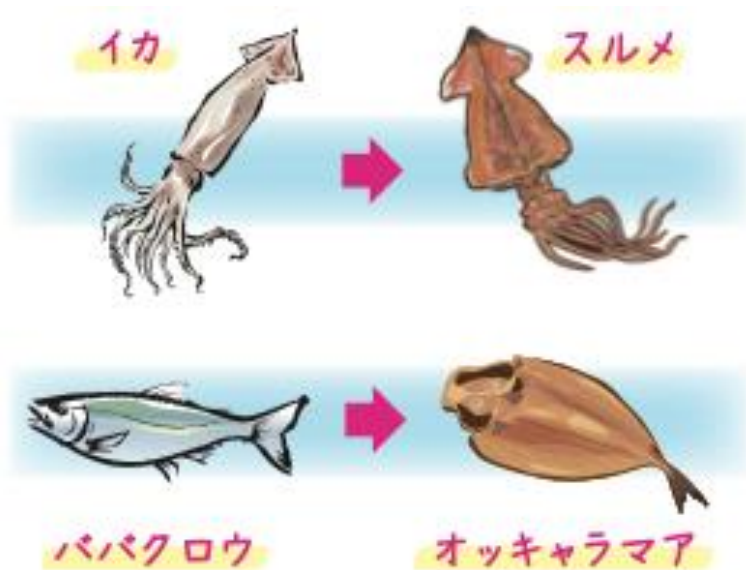


めずら さかな はなし き とのさま
珍しい魚の話聞いたお殿様は、すぐ
りょう し か
に漁師からババクロウを買いました。そして、
ほ かわ
ババクロウを干して乾かしました。
さかな ほ くさ た
魚を干したら腐らないので、いつでも食べる
ことができます。



それを聞いたお殿様は、「この魚が釣れたときは『ババクロウ』と言って、今は『オツキャラマア』と言う。私にうそを言うのか!」と、大変怒りました。

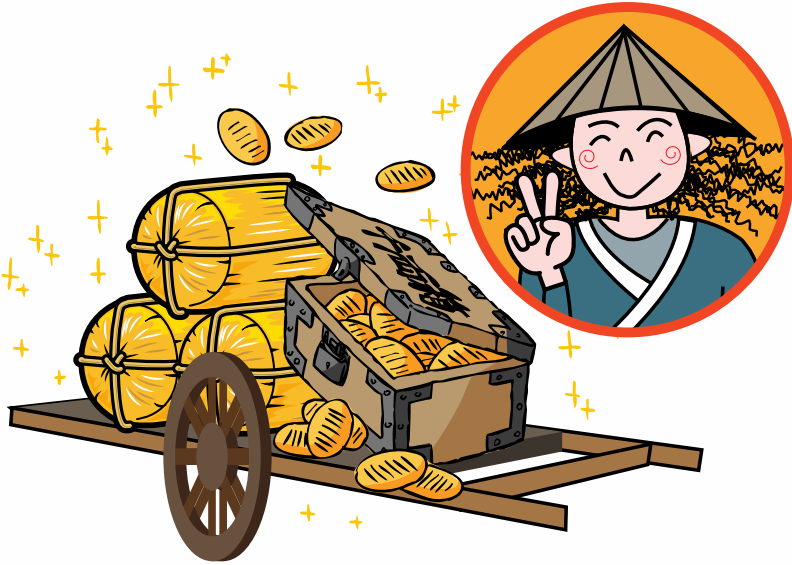
でも、吉四六さんは言いました。



とのさま なま ほ なまえ
「お殿様、生のイカを干したら、名前は
『イカ』から『スルメ』に変わりますね？」

「そのとおりだ」

なま ほ なまえ
「生のババクロウを干したら、名前は
『ババクロウ』から『オッキヤラマア』に
変わるのです」



「なるほど」

とのさま かんしん きっちよむ
お殿様は感心しました。吉四六さんは

とのさま かね こめ
お殿様から、たくさんのお金とお米をもらって

かえ
帰りました。

さいわ すみだ たまき
再話 住田 環

おおいたはつ よ かい かいいん
(大分発わくわく読みものをつくる会 会員)

イラスト かとう もりひろ
加藤 守弘

イラスト AC

さんこう しりょう
参考資料

とみた ひろゆき
富田博之(1988)「「ババクロウ」というさかな」『ゆかいな吉

ちよむ にほん こ ぶん こ こうがくかん
四六さん』(日本の子ども文庫3), pp.140-147, 講学館

ほん なか に じ し ょ う きん
この本の中のイラストの二次使用を禁じます

